

# 提案25 世界に誇る日本の下水道 ~ 東アジアの一大センターとして ~

## 1. 提案の概要

【日本で】

- 国内の大都市がGlobal City (グローバル・シティ)として、独自のプレゼンスを発揮する。下水道施設空間の高度利用や、処理水のせせらぎ用水への供給などにより、魅力ある都市空間を提供し、アジア地域のみならず、各国から多くの人々を惹きつける。

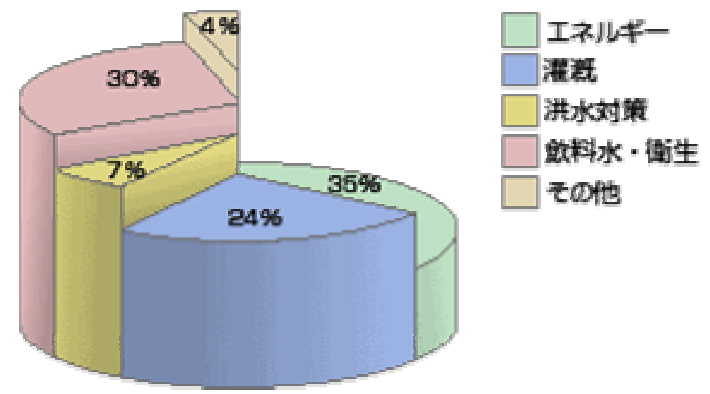
【アジアで】

- ハード、ソフト両面において下水道技術や事業運営ノウハウなどの国際的な移転を通して、リーダーシップを高めていく。下水道事業に関する学術研究のセンターとなり、「国際下水道大学」、「国際下水道資料館」などの施設を整備する。また、下水道技術者、行政関係者の人材バンクを作り、国際IT授業などを通して日本の技術を伝え、人材育成の上での国際貢献を推進する。海外処理場の遠隔操作など技術革新を推進する。

### 日本のODAの目的別内訳

(2001年度 E/Nベース)

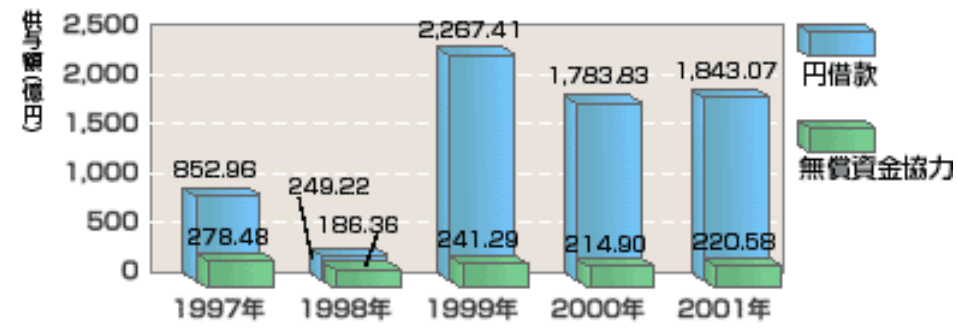
(円借款、一般プロジェクト無償資金協力)



### 水分野のODA実績

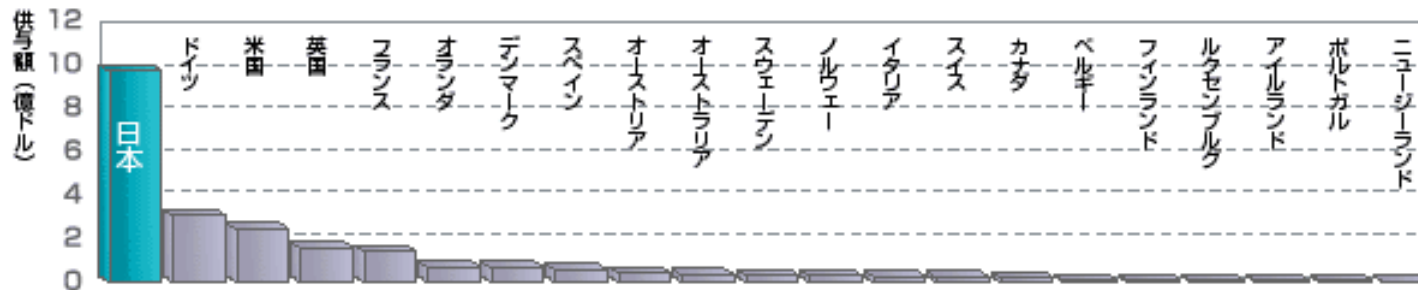
(1997~2001年度 E/Nベース)

(円借款・一般プロジェクト無償資金協力)



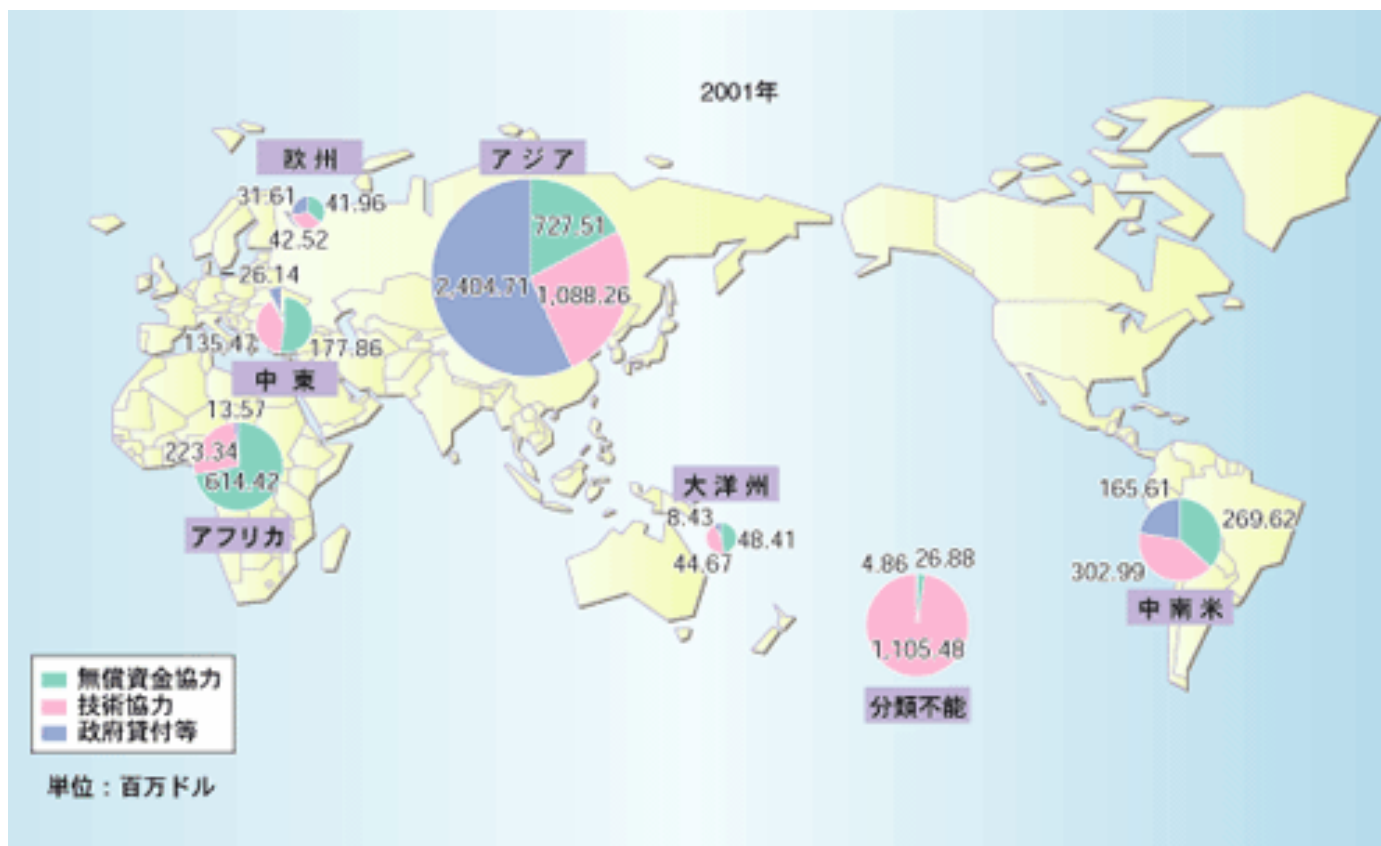
出典：「世界の水問題解決に貢献する日本のODA」外務省パンフレット

## 飲料水・衛生分野ODA実績がODA総額に占めるシェア



出典:「世界の水問題解決に貢献する日本のODA」外務省パンフレット

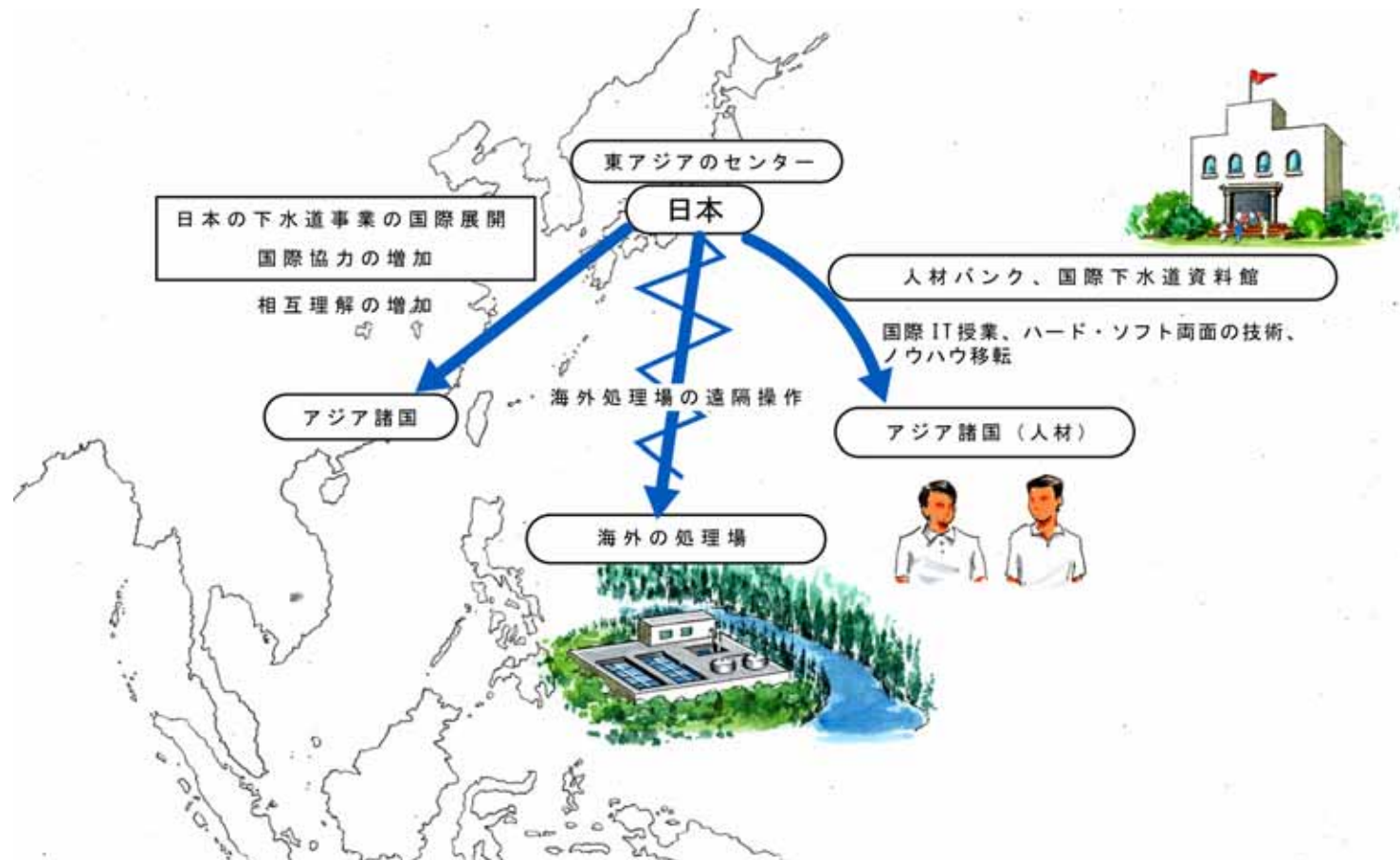
## わが国二国間ODAの地域別配分



出典:「ODA白書」2002年版 外務省

## 2. 提案の背景

- 水問題は世界的な課題であり、アジア地域でもまだ下水道の普及が遅れているが、水処理における日本の貢献に対する期待は今後も高まっていく。
- 日本国内の大都市が、アジアのみならず世界各国に対して情報発信源としての役割を果たす必要がある。
- 都市施設として、健全な水循環に貢献する下水道として、より一層の整備促進、高機能化が必要となってくる。



### 3. 提案の効果

- 日本の下水道事業がサービス産業としてのノウハウを蓄積し、日本の技術能力、マネジメント能力が高い評価を受け、国際市場においてプレゼンスを高める。
- 今後、海洋浄化などの面においてアジア地域内の協力体制が必要となる場合、日本の発言力や地域貢献が増加し、日本の存在感が各国にアピールされる。
- このような地域貢献を通じて、日本に対するアジア地域の理解が高まる。

### 4. 実現のためのシナリオ

- 技術移転、国際貢献等の分野で、開発途上国への協力体制を強化する。また、海外処理場の遠隔操作など、技術革新を推進する。
- 国内の大都市が都市間の国際競争において有利になるよう、都市機能を充実させる。
- 今後、個々の選好に応じたライフスタイルを満足できるよう、都市の高機能化を図り、魅力ある都市空間を提供する。